

インタビュー ②

(掲載企業は50音順)



Honda Jet

品質を支える技術と人材を提供し続ける 35年の伝統:HBC研修

JUSE-StatWorksをSQC教育の教材としてフル活用

本田技研工業株式会社 (栃木県芳賀郡)

栃木県宇都宮市からタクシーで30分ほどの場所に、本田技研工業株式会社の品質改革センターがあります。芳賀工業団地の広大な敷地の一角に、ひととき大きな建家があり(以前は芳賀工場として活用されていた建屋とのこと)その場所が今回の取材先です。

タクシーで到着し、受付手続きを済ませて正面玄関に入っていくと約束の時間になり、奥から品質企画室指導員の小野さんの

笑顔の出迎えを受け、その後、会議室で生産技術主幹の川尻さんとお会いしインタビューをさせていただきました。

1. 組織体制

川尻さん、小野さんの所属されている本田技研工業の品質改革センターは、全世界に展開している事業所を対象に、品質戦略を構築する部門として、4年前に創設されました。この新しい部門の特徴は、製品の

品質保証に関する企画と検証を行う組織が一緒になり、最前線で活躍する開発部門や製造部門へのスピーディーな支



ASIMO

援をすることに特化した部門として生まれ変わったという点にあります。

2. 人材育成としてHBCがスタート

今回は、品質改革センターの人材育成に対する取り組みである、(財)日本科学技術連盟と共催で実施されているホンダベーシックコース(以下:HBCとします)についてお聞きしました。

HBCの歴史は古く今から35年前の1971年にさかのぼります。日本が高度成長から成熟期へ転換する時期であり、SQC手法に対する本格的な企業の取り組みが高度化する時代になりました。本田技研工業として、グループ関連会社を含め「品質は人材育成」をモットーに本格的に品質管理教育をグループ一体でスタートした瞬間です。

自然環境にも恵まれた鈴鹿サーキットの研修施設に、社内工場や研究所、および関連会社から次の世代を担う技術者が集います。そこでは通常の業務とは離れて、各月1週間ずつ5ヶ月間、集中して知識と実務面でスキルアップできるカリキュラム(まさに連盟ベーシックコース)がスタートします。HBC開講当時は、統計理論の講義を中心に、関数電卓で演習問題を行うスタイルを用い、SQCの基本から応用までのスキルを体系的に身につける為の研修でした。

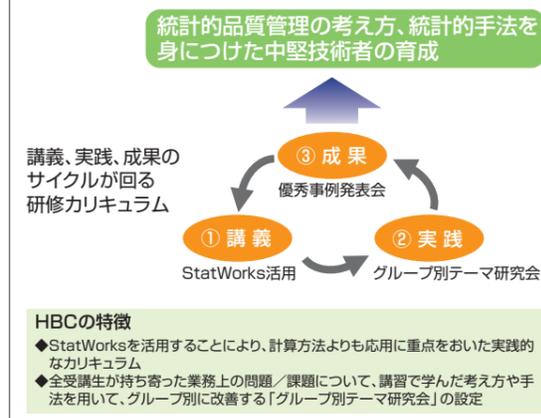


鈴鹿研修施設

その後、研修カリキュラムの内容を年々ブラッシュアップし、最近では、「桁違いの品質向上に寄与すべく、研修受講後に実務に於いて効果を上げること」を大きなテーマとしてカリキュラムが改訂されることになりました。講義は、日科技連ベーシックコースのテキストなどを用いながら、講義した理論の活用を意識して統計ソフト(StatWorks/V4.0)を活用し、知識の習得よりも応用力に重点をおいた実践的カリキュラムになっています。

例えば、講義で学んだ考え方や手法を検証しスキルアップするための「グループ別演習」、現場のテーマを自ら期間中に問題解決する「グループ別テーマ研究会」などで習った手法や技術をすぐ実践することに重きをおいた運用は注目に値します。

HBCカリキュラムの狙い



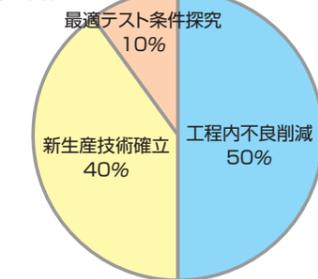
HBCの卒業生は、すでに3000名を超えています。そして、統計的品質管理の考え方、統計的手法を身につけて、固有技術に

活かせる技術者は全世界の本田技研グループの事業所で活躍されています。また、毎年、約80名の技術者の方が受講し、グループ内の重要課題に取り組んでいます。

最近の特徴としては、参加者の層が会社全体に広がっていることだそう。例えば、製造部門、品質部門だけでなく、設計・開発部門や購買部門など幅広くなってきています。さらに本田技研工業の本体以外に、関連会社の方も広く参加され、グループ一丸となって人材育成に取り組まれています。このような例は少ないのではないかと思います。

カリキュラムにおいても、統計理論と合わせてStatWorksの操作方法も大きな研修内容となっています。参加者が、理論と実践をスムーズに行う上で不可欠な教材として活用を頂いています。

優秀事例の内訳



3. 今後の展望

最近では、HBC受講に対する社内外からの問い合わせが多くなりつつあります。その理由としては、SQC手法が業務で積極的に活用され始めているからです。そして、SQC手法に関する問い合わせ窓口も品質改革センターが担当することで、組織的に明確になったことの効果は大きいと実感しています。

現在では、センターに対して、各事業所の製造、品質部門などからも、重回帰、判別分析、実験計画法等への質問が寄せられ、品質不良やコストの削減に貢献しています。

今後も継続的人材育成はもとより、設計品質の強化とスピードアップを重視したカリキュラムの作成等を目指していられるとのことです。

まさに「継続は力なり」を実践しておられると実感したインタビューとなりました。

(本稿は本田技研工業 川尻渉氏、小野弘太郎氏からお話をお聞きし日科技研が取り纏めたものです)

掲載されている著作物の著作権については、制作した当事者に帰属します。

著作者の許可なく営利・非営利・イントラネットを問わず、本著作物の複製・転用・販売等を禁止します。

所属および役職等は、公開当時のものです。

■公開資料ページ

弊社ウェブページで各種資料をご覧ください <http://www.i-juse.co.jp/statistics/jirei/>

■お問い合わせ先

(株)日科技研 数理事業部 パッケージサポート係 <http://www.i-juse.co.jp/statistics/support/contact.html>